



妊婦さんへ

生まれてくる赤ちゃんをRSウイルスから守りましょう

2024年9月1日より、RSウイルスワクチン「アブリスボ」接種を始めます

生まれてきた赤ちゃんは、2歳までにほぼ100%がRSウイルスに感染します。特に、生後6か月未満で感染すると重症化します。

日本では、毎年12～14万人の2歳未満の乳幼児がRSウイルス感染症と診断され、約1/4が入院を必要とし、生後1～2か月の乳児が最も多くなっています。

RSウイルスワクチン「アブリスボ」を妊婦さんに接種することで、お母さんの体内でRSウイルスに対する抗体が作られ、その抗体が胎盤を通じてお腹の赤ちゃんに移行します。この抗体が生まれてきた赤ちゃんを生後数か月の間RSウイルスから守ってくれるので、RSウイルスにかかりにくくなったり、重症化しにくくなったりします。

アブリスボは妊娠24～36週の妊婦さんが接種対象ですが、当院ではワクチンの効果がより高くなる32～36週の妊婦さんを対象とします。

(ワクチンの効果が現れる期間を確保するため、ワクチン接種から分娩まで14日以上期間が必要です。)

ワクチンは予約制です。

帰省などで、他院で分娩予定の方や、他院に通院中の方も接種していただけます。ご相談ください。

料金：33,000円（税込み）

